

令和2年度 専門部会 「サービスのあり方検討会」最終報告

1 目的

市内の特定相談支援事業所の相談支援専門員は、権利擁護の視点を大切に、個別支援の実践とともに社会環境の調整を行い、地域課題に関する利用者の意思を決定するための支援をするとともにニーズをアセスメントし代弁する役割がある。相談支援専門員のケアマネジメント能力の向上と均質化、調布市におけるサービスの支給決定の考え方の共有、情報交換等を図り、ひとりひとりの尊厳のある暮らしが満たされる社会を構築することをめざし、よって障害者福祉の増進に資することを目的とする。

2 出席者

調布市内の指定特定相談支援事業所（13事業所）の相談支援専門員

- (1) 社会福祉法人新樹会 地域生活支援センター希望ヶ丘（主に精神）
- (2) NPO 法人 NPO 銀河福祉会 銀河ケアサービス（知的・障害児）
- (3) 調布市子ども発達センター（主に障害児）
- (4) 調布市福祉健康部障害福祉課（身体・知的・精神・障害児）
- (5) 社会福祉法人調布市社会福祉事業団 ちょうふだぞう（主に知的）
- (6) 社会福祉法人調布市社会福祉協議会相談支援事業所 ドルチェ（主に身体、障害児）
- (7) 社会福祉法人調布市社会福祉協議会相談支援事業所 調布市こころの健康支援センター（主に精神）
- (8) NPO 法人全国重度障害者相談支援協会 C I L ちょうふ（主に身体）
- (9) 社会福祉法人新の会 プラントシード（主に知的）
- (10) 株式会社ケア21調布（身体・知的・精神・障害児）
- (11) 合同会社マーレ相談支援事務所（主に知的・精神）
- (12) 株式会社シエル相談支援センター（身体・知的・精神・障害児）
- (13) K I Z U N A 相談支援センター調布（児童）
（事業所の開設順に記入しております）

3 開催実績（各回2時間程度）

(1) 第2回

- ① 日時：令和2年10月26日（参加者13名）
- ② 内容：「障害者避難支援計画」について事例を基に活用方法を検討する。
「障害者避難支援計画(仮)」の書式についてグループに分かれて書式の内容の検討を行った。3障害に共通の書式を活用する

のは難しく、必要な部分を選択し、利用できるよう調整した。
次年度から運用できるよう整えていく。

(2) 第3回

① 日時：令和3年2月22日（参加者15名）

② 内容：地域生活支援拠点会議の実施と事例検討を行った。

地域生活支援拠点会議として担当者から今年度事業所から出たサービスについての課題や状況を説明。次年度の報酬改定についての説明を行った。その後、多問題を抱えた家族の児に対する援助方法について事例検討を行った。今回はZOOMを活用したグループワーク形式にて行った。

4 今後について

今年度は年5回開催のところコロナウイルスの影響もあり、3回の実施となった。次年度も同様の体制が継続すると思われるため集合開催以外の方法を検討し行っていきたい。また、地域生活支援拠点としての機能が追加され、地域体制共同支援加算ができたことで、地域の個別事例から地域課題を抽出されやすくなったため、来年度もこの取り組みを継続する。

また、「障害者避難行動支援計画」を実施した結果、実際に作成して生じる課題等を共有し、計画の質を向上していきたい。